

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野1：大学拡充計画の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:7】 教育の実践の場としての医療・福祉施設の展開</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)–平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新専攻分野の設置・収容定員の増加・大学院新分野の設置の検討と、実現へのプロセスの推進 2. 施設の改修及び教育環境などの改善に向けた取り組み 3. 連携する福祉施設の効果的な教育現場への活用と、附属医療施設設立の可能性の探究 	
<p>責任者:水谷 史生（法人事務局長） 分担者:山口 えり子（企画広報課長） 事務局:企画広報課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 新専攻分野の設置・収容定員の増加・大学院新分野の設置	<p>①保健衛生学部理学療法学科を改組し、保健衛生学部リハビリテーション学科理学療法専攻、作業療法専攻の設置を検討・準備を進める。 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学科と事務局で教育課程、施設・設備の検討を重ね、2019年4月設置に向けて文部科学省への申請を進めている。</p> <p>②看護学分野の大学院修士課程の設置を検討する。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 看護学分野設置検討のための拡大将来構想委員会を設置し、教育課程等の検討を行っている。</p> <p>③平成30年4月大学院医療科学研究科に臨床心理分野を設置するための準備を進める。 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 平成30年4月より医療科学研究科医療科学専攻に臨床心理学分野を開設し、「公認心理師」「臨床心理士」の受験資格に対応したカリキュラムで授業及び実習指導を開始している。</p> <p>④大学附属こころの相談センター及び大学附属こころのクリニックの開設 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 こころの相談センターは4月開設、こころのクリニックは5月に開院し、相談件数、診察件数ともに増加しており、今後も地域社会に貢献していく。また、臨床心理分野における学部生・大学院生の教育・実習のためにも活用していく。</p>
2. 施設の改修及び教育環境などの改善	<p>①1) 保健衛生学部理学療法学科の改組に伴う施設の改修検討 2) その他施設の改修検討 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 1) 改組に向けA講義棟とJART記念館の施設一部を改修し実習室、</p>

	<p>研究室、ゼミ室等を整備する計画で進行中。 2)研究厚生棟及び実験実習棟2・3階空調設備更改、実験実習棟1・2階トイレ改修、非常放送設備更新、受電設備更新、白子キャンパス講堂屋上防水改修は竣工済み。</p> <p>②教育環境改善に必要な施設設備についての調査内容の実現に向けて、各セクションの予算案に計上された計画を平成29年度予算として編成する。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 予算編成で組み込まれた計画に関しては順調に実施されている。</p>
<p>3. 関連福祉施設と附属医療施設</p> <p>附属医療施設設立の可能性検討</p>	<p>①サムス会が運営する福祉施設について効果的な実践教育の場として機能するよう施設側と協働の下、各学科において教育計画をさらに進める。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 実践教達育成の場として施設側と協働の下、教育計画を進めている。</p> <p>②鈴鹿ロボケアセンターと協業し、ロボットリハビリテーションの実践教育の場を機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 計画通り、理学療法学科3年生を対象に操作資格（サイバーダイナ社指定の安全講習）を取得させるための講義・実習を行っている。</p> <p>③附属施設設立の可能性について積極的に検討する。 <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 緩和ケア病棟については、三重県知事への事前協議申請を平成29年10月に行った。初期の工程に沿って計画の推進を計っているが、県医療保健部から慎重な意見調整と協議に時間を要するため、結論を得るまでに期間が必要との考え方が示されている。</p>

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野2：大学広報の強化と入学者受入れの改善	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:3】 戦略的広報の展開</p> <p>【中期計画】(平成27(2015)–平成29(2017)年度)</p> <p>1. 本学のアドミッションポリシーに沿った学生確保を実現するため、広報活動の強化と入試制度の改革・改善の推進</p>	
<p>責任者:長村 洋一 分担者: 小山 尚樹 (入学課長)、山口えり子 (企画広報課長) 事務局:入学課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1-1. 広報活動の強化	<p>①効果的な広報戦略の立案・実行 <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 テレビ、新聞等のメディアでの広報は例年通り行い、新しくインターネットを利用した広告・宣伝活動を導入した。このWeb広告により約800件近く資料請求数を獲得することができた。志願者数への影響を確認し、学生の動向を分析することで、今後、新たな広告・宣伝活動への検討材料としていく。</p> <p>②大学ポートレートへの継続的参画 大学運営の現状に関する情報公開の充実 <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 平成29年7月に各学部・各研究科・事務局各課において内容確認と更新作業を一斉に実施した。その後の更新についても担当部局等において更新作業を実施し、常に最新の情報公開を行っている。</p> <p>③受験生ニーズ・志向調査分析(把握) <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 河合塾、リクルート、進研アド等を通じて、受験生の志望校検討時期や決定時期を一定以上把握している。</p> <p>④高等学校との連携強化 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 高等学校との新規連携協定締結(四日市メリノール学院・2017年7月締結)などを進めており、今後も提携校を増やす取組を継続する。また、三重県高等学校・科学オリンピック大会への共催等を通じて県内高校との関係をこれまで以上に強化している。</p> <p>⑤関連職能団体との連携による広報活動の検討 一部学科においては現在も連携を模索しており、今後も関連職能団体</p>

	<p>との連携調整を継続する。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 各職能団体が主催する一般、高校生向けイベントへの参加や大学紹介資料の配布等を通じて認知を高めている。(三重県看護協会他)</p> <p>⑥小・中学生、高校1、2年生を対象とした出張講義・大学見学会の実施 <input type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input checked="" type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記進捗状況の具体的内容 高校1、2年生を対象とした講義・見学会は拡大を図ることができたが、小・中学生に対しては、相手方のニーズと本学の提供できる教育との乖離が見られ、実施はごくわずかであった。今後は対象を高校生(1、2年生)の絞って進めて行くこととする。</p> <p>⑦大学ブランド力のアップのため、各学科(コース)の教育・研究・地域貢献活動等の内容を積極的に発信 ・テレビ、新聞などのマスメディアを利用した広告・宣伝活動 ・ホームページを充実させるため「大学ホームページのリニューアル」を主とし、「鍼灸治療センター」「クラブ・サークルページ」などのコンテンツの整理・改善 <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 テレビ、新聞等での広報に加えインターネットを利用した広告・宣伝活動を導入した。また、大学ホームページのリニューアルを主として各学科・コース(専攻)の教育・研究・地域貢献活動等の内容を分かりやすく掲載し、積極的な情報発信を行った。今後は、平成30年3月から運営を開始したSNS(LINE, Instagram)も利用し、より積極的な情報発信を行っていく。</p> <p>クラブ・サークルページは平成29年4月公開済み。 大学ホームページリニューアル、鍼灸治療センター、資格紹介サイト、オープンキャンパスサイトリニューアル、作業療法学専攻特設サイトは平成30年3月公開済み。</p>
<p>1-2. 入試制度の改革・改善</p>	<p>①入学者選抜方法を以下の観点で検証・改革改善する。 ・入試結果・入学者状況 ・高等学校状況 ・高大接続改革実行プラン <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 毎年入試結果(志願者、合格者、入学者)に応じて各入学者選抜方法の検証に基づき、試験会場、入試科目他の改善を行っている。</p> <p>②高校生(高校教員)向けアドミッション・ポリシーの策定 <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 策定に向け各学科からの意見聴取に基づく案を作成し、受け手である高校側との調整が終了している。2018年9月発行の学部募集要項への掲載にむけ準備を進めている。</p>

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野3：教育内容の充実	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進</p> <p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)～平成29(2017)年度） 1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	
<p>責任者：鎮西康雄（教務・教育改革担当副学長） 分担者：藤原正範（底力教育推進センター長・副教務委員長）、出屋敷喜宏（FD推進委員長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>① 力教育の充実に向けた授業方法・授業内容の検討 （底力教育推進センター・多職種連携教育推進委員会） □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 底力教育4年目の分析および将来構想について全学で検討した結果、見直し案の一部を平成30年度に実施し、更なる見直しをS-Proを立ち上げ、平成31年度以降に向け検討することとしている。</p> <p>② 基礎教養教育の検討と教育内容の検討 （教育改革・改善推進委員会） ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 教務委員会を通して全学検討された報告を受け、教育改革・改善推進委員会で授業方法・授業内容の改革案を検討し、教務委員会へ提案した結果、一部実施することに至った。 授業方法を講義70分、振り返り20分へ変更 など</p> <p>③ 専門教育改革（各学科、教務委員会、教育改革・改善推進委員会） ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 IR推進室主催の学科別報告会でデータ分析し検討した。平成30年度からは、「課題改善計画書」を各学科提出する仕組みを作った。</p> <p>④ 教授方法の改善（FD推進委員会、教育改革・改善推進委員会） ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 授業評価アンケートの回答率アップに向け、授業内アナウンス用パワーポイントを作成し、各授業で案内してもらう仕組み作りをした。また、学生による授業評価高得点賞の該当者は、平成29年度も学長より表彰され、その授業工夫に関する内容を本学教育研究会で発表している。</p>

	<p>⑤教育評価基準の検討と教務管理体制の改革 (FD推進委員会、教育改革・改善推進委員会) 3つのポリシー改定に伴う教育評価方法等が示されたことを基に教務管理体制を整えていく。3つのポリシー実現に向けた取組 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学修ポートフォリオ検討WGや教育活動の定性的評価検討WGを設置し検討している。その結果、学修履歴の振り返りの仕組みを作った。定性的評価に関する検討を更に進めている。</p> <p>⑥学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR推進室)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を検討(教育改革・改善推進委員会) ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学長や副学長、大学事務局長を含めたIR推進室会議において、分析し検討を行っている。</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>① 支援学生・留年退学リスク学生の早期発見体制の構築 (IR推進室、教務委員会、底力教育推進センター、FD推進委員会) ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 IR推進室による報告会後の各学科別要望に沿った分析データや、底力教育推進センター管理の下、学生情報を学科に渡す仕組みを作り、早期発見・対応を可能にした。</p> <p>②グループ学習の支援体制の確立(教育改革・改善推進委員会) □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 各学科の事例を参考に学生相談室の教員を中心に「学生のグループ学習とピアサポートシステムの構築と充実」という教育改革提案が検討されている。</p> <p>③リメディアル教育の充実(入学課、底力教育推進センター) 3つのポリシー実現に向けた取組 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 底力教育推進センター長を中心とし、本学の教員及び非常勤講師によるリメディアル教育を実施している。実施結果を学科や保護者へ報告し、専門教育科目への関連性も分析し、更なる改良を検討している。</p> <p>④学修評価方法として従来からの知識・思考確認試験やレポートに加えて、技能・態度を適切に評価するための評価尺度(ルーブリックなど)や、学生の行動記録に基づいた学修ポートフォリオなどを活用した評価方法の実現(教育改革・改善推進委員会) □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 評価尺度検討WGを設置し、検討された結果、シラバスへの評価尺度に関する明示方法の提案があり、講演会および研修会を実施し全教員に向け、シラバスの記入方法について周知した。 また、Moodleを利用したeラーニングシステムの導入を臨床検査コースで開始し、担当教員による進捗状況報告会を実施。また、企業教社によるプレゼンを実施し、教職員の意見を収集し、導入に向けた検討をしている。</p>

	<p>⑤試験の成績、GPA、意識調査、学修ポートフォリオなどを活用して個々の学生に対して面談を実施するなどのきめの細かい学修指導を行い、学生の主体的な学習を促すための検討。</p> <p>■A100% □B80% □C50% □D50%未満</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各学科において、GPA 値を利用した学修指導基準を設けたため、担任教員は、SUMS-PO を利用し、その指導内容を保存する仕組みを作った。</p>
--	---

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野4：学生支援の強化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進</p> <p>【中期計画】(平成27(2015)-平成29(2017)年度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な教育指導方法の具体化および実施 2. 就職率100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み 3. 学生の満足度向上に繋がる学生生活支援体制の構築 4. 大学行事、学友会活動、ボランティア活動への積極的な参加の促進と自主的に活動する学生の育成 	
<p>責任者:長村 洋一(学生・社会貢献担当副学長)</p> <p>分担者:山門 徹(健康管理センター長)、大井 一弥(国家試験対策WG副委員長)、綾野 眞理(学生相談室長)、谷口 弘(就職・キャリア支援課長)、田中 宏治(学生課長)、宮崎 和裕(白子学生・就職課長)</p> <p>事務局:学生課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 国家試験活動内容の具体化	<p>①学習の習慣化と指導 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 講義は一年間を通して、計画的に組み立てて行い、放課後は補習の実施や質問に応じ、さらには自習が可能なようにセミナー室の利用を促している。</p> <p>②学生の支援 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 精神的な問題で勉強に集中できない学生に対しては、早期の段階から担任を中心としたサポート体制を構築して対応する。</p> <p>③国家試験合格に向けての教員の意識向上 <input type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input checked="" type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 前年度の総括を行い、今年度、合格率の向上に向けて、新たに行うべき事象を洗い出し、議論を重ねて施行していく。</p> <p>④各学科における国家試験対策の情報共有 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 国家試験WGを6月と10月に開催し、6月には前年度の結果報告、反省点及び当該年度の目標、対策について各学科・専攻から発表を行い、10月にはその進捗状況及び学習支援体制について報告を行っている。</p>
2. 就職支援体制の強化	<p>①国家資格を取得しても、就職先が飽和状態である管理栄養コースの学生に対して、就職活動を始める前の2年時、3年時前半で食に関連した業種・職種を紹介して行きたい。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 2年生・3年生対象に食品会社、中部空港にて機内食のケータリングを行っている企業や農場経営及び食品加工を行っている企業を見学するバスツアーを実施した。</p> <p>②マナー指導の更なる徹底。 なぜ、遅刻をしない、あいさつをきちんとする、敬語の使い方などの基本的なマナーが重要であるのかを現役、医療従事者から、レクチャーいただく。 <input type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input checked="" type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 9月、12月の2回に分けて3年生対象で企業、病院でマナー講座を実施している会社によるロールプレイ形式の講座を実施すると共に各職種毎に病院、企業の採用担当者を招き、面接での着眼点を講義いただいている。 また、医療従事者対象実績のある経験豊富な講師を招いてのマナー講習会を実施している。</p>
<p>3-1. 学生生活支援体制の強化- 学生の要望や状況を常に把握し対応する体制の強化</p>	<p>①学長と学生が直接意見交換する取り組みの実施 <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>②学生の満足度を把握するとともに、取り上げるべき要望について検討 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p>
<p>3-2. 学生生活支援体制の強化- 健康管理体制の整備（からだ・こころ）</p>	<p>①健康管理センター（千代崎キャンパス）・白子保健室（白子キャンパス）における機能充実の検討 ・利用状況等調査の実施と調査結果に基づく改善実行 ・学生データの一元化、システムの検討 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学生データの一元化に関しては費用が高額な為、検討中</p> <p>②障がい者差別解消法の施行に向けた、支援体制（関係部局の連携強化）と、具体的な支援の実施 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>③学生相談体制の有効なあり方、支援のあり方の検討 ・相談体制の整備 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>・各学科教員との連携 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p>
<p>3-3. 学生生活支援体制の強化- 福利厚生と基本的生活指導</p>	<p>①学生の福利厚生、学内生活環境、学生生活の充実における満足度向上のための取り組み <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>②安全な学生生活を送れるための援助の継続 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>③学生の栄養指導による健康管理への介入の検討 ・学生の食事に関する栄養指導 ・定期的な栄養相談の実施 <input type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input checked="" type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p>
<p>4. 課外・社会活動の自主的参加への支援</p>	<p>①学生組織、各種クラブ・サークル活動支援の継続 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>②ゴミ拾い等、地域貢献活動の積極的な取り組み <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>③ボランティアセンター運営委員会の適正な運用 ・学生が責任感を持ち、積極的にボランティア活動への参加ができるようサポート <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>④大学祭実施について <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>⑤駅伝大会の実施について <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p>

重点分野5：教職員の人材確保と育成	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)～平成29(2017)年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学教員として相応しい人材の確保と育成 2. 自助努力を促しつつFD等による教育能力の向上に努め、次世代を担う教員が育つ環境の整備 3. 事務職員に課題解決型業務に対応できる能力を涵養するためのSDの実施 	
<p>責任者: 鎮西康雄（教務・教育改革担当副学長） 分担者: 出屋敷喜（FD推進委員長）、水谷史生（法人事務局長）、村田尚久（大学事務局長）、 矢田智樹（人事・厚生課長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局: 人事・厚生課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 大学教員として相応しい人材の確保	<p>①分野特性や本学の特殊事情を考慮し学科の適正な教員数や構成（年齢構成・男女比・実務教員の比率など）についての調査・検討（学長、副学長、大学事務局長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学科のアフターケアの改善意見に対して、解決策を検討し、平成29年度中に実行していく。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 看護学科のアフターケアの改善意見に対し、実施途中である。 <p>②教員の昇任・採用に関する審査基準の確立と実行（学長、副学長、大学事務局長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長・副学長ミーティングにおいて、平成29年度の昇任・採用時から適用できる改正版を作成し、実行できるようにする。 □A100% □B80% □C50% ■D50%未満 上記達成状況の具体的内容 当初の改善内容案について一部異論があり、そこから先に進めていない。
2. FD等による教員の教育・研究能力開発の推進	<p>① 教員の教育力向上方策についての具体的検討と実行（FD推進委員会、教育改革・改善推進委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 成績評価に関する研修会を実施したり、本学独自のFDマニュアルをFD推進委員会が作成しているが、完成には至っていない。 また、県内大学および大学コンソーシアム京都によるFDフォーラム等への参加が、制度化されており、参加報告書は大学ホームページで公開している。

<p>3. 職員の能力・資質を向上させるための研修の充実</p>	<p>①必要な知識を身に付け、能力及び資質を向上させるため、研修会等への積極的な参加と、その研修内容および研修成果の学内共有（学長、法人事務局、大学事務局） <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学内事務職員研修会、私学連携協議会みえ合同研修会、各課における業務上必要な研修会への参加など、順調である。ただし、研修内容および研修成果の学内共有方法については、確立されていない。</p> <p>②キャリアパスを見据えた研修機会の提供（学長、法人事務局、大学事務局） ・研修会の情報収集および検索の強化を図る。 <input type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input checked="" type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p>
----------------------------------	--

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野6：研究機能の充実	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:5】 外部資金の獲得と独創的な研究</p> <p>【中期計画】(平成27(2015)–平成29(2017)年度)</p> <p>1. 将来に向け、本学独自に指導的立場の教員を育てていくための、大学院の充実と研究者の育成</p> <p>2. 特色ある研究領域における独創的な研究を進めるための、研究環境の整備と充実</p>	
<p>責任者:川西正祐(大学院・研究担当副学長/薬学研究科長)</p> <p>分担者:葛原茂樹(医療科学研究科長)、磯部篤男(研究振興課長)</p> <p>事務局:研究振興課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 大学院の充実と研究者育成	<p>①大学全体として、あるいは学科毎にその能力を伸ばすような集团的・横断的指導体制を作り、研究力の育成方法を検討する。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 研究推進委員会と研究ブランド化委員会を立ち上げ、私立大学研究ブランディング事業計画を策定する過程で学科を超えた集团的・横断的指導体制が確立した。</p> <p>②教員の研究力向上のための方策として、若手教員の研究を支援する方法について検討するため、研究実施委員会を年3回開催する <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容。 研究実施委員会を3回開催した。</p> <p>③本学卒業生の大学院入学を促進し、学生及び大学院生の論理的思考力・問題解決力等についての学内広報の強化、及び同窓会と連携した学部卒業生への情報提供強化等を行い、大学院進学を促進する。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p> <p>④平成28(2016)年度から、医療科学研究科東京サテライトで、「医学物理士認定試験」の受験支援を目的としたカリキュラムを盛り込んだが、アンケート、授業方法や内容、学修成果を分析した結果を基に平成29年度の内容充実を更に検討する。(教務課) <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 医学物理士認定試験に向けた支援講座の実施体制を改正し、科目等履修生枠を設け、東京サテライトキャンパスの大学院生との関わりから、入学生確保も視野に方針を変更した。合格者実現ために更に検討する。</p> <p>⑤名古屋サテライト拡充に向けたホームページ活用や学生確保のための広報活動等を充実させる。(教務課、企画課、入学課) <input checked="" type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) に申請し、認定を受けた。その件を本学ホームページ上に公開し、更に教育訓練給付金受給に向け、手続きを進めている。</p>
<p>2. 研究環境の整備・充実</p>	<p>①東洋医学的視点及び薬食同源の観点から本学の独創的研究を進めるための研究環境の充実を図るため私立大学ブランディング事業に公募に応募するよう全学的に構想を練る。 <input type="checkbox"/> A100% <input checked="" type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 健康寿命の延伸研究拠点としての SUMS の貢献として、平成 29 年度の私立大学ブランディング事業に応募した。</p> <p>②各学科・各研究科・各分野に、独創的な研究対象を設け共同研究を進める体制の構築を検討する。 <input type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input checked="" type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 研究実施委員会で、科学研究費補助金の応募を増加する方針のもと、共同研究が多く行われるようになった。</p> <p>③科学研究費などの外部資金の申請率及び採択率をあげるための具体的方策を実施 ・科学研究費採択率向上を目指し、講習会の開催 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 科学研究費公募要領説明会を 2 回実施した。</p> <p>・より良い科学研究費申請書の作成のためのサポート体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 応募前に審査委員経験者による申請書確認を実施した。</p>

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野7：地域・産学官連携推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】（平成27(2015)–平成29(2017)年度）</p> <p>1. 地域・産学官連携研究活動による社会貢献の推進 2. 地域・産学官連携研究活動の強化に向けた学内基盤の整備</p>	
<p>責任者:鈴木宏治（社会連携研究センター長） 分担者:磯部篤男（研究振興課長） 事務局:研究振興課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 地域・産学官連携研究活動による社会貢献の推進	<p>①県・市町・企業・地域団体等との間で行う研究に関する産学官連携活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SUZUKA 産学官交流会活動への参画 ■ A100% □ B80% □ C50% □ D50%未満 上記進捗状況の具体的内容 SUZUKA 産学官交流会役員会に毎回出席し、理事、事務局員として建設的意見を述べるなど交流会の活動に積極的に参画した。 ・みえメディカルバレープロジェクト活動への参画 ■ A100% □ B80% □ C50% □ D50%未満 上記達成状況の具体的内容 みえメディカルバレープロジェクト企画推進会議会長として、メディカルバレープロジェクトの企画と推進に積極的に参画した。 ・みえライフイノベーションプロジェクト（LIP）鈴鹿活動への参画 ■ A100% □ B80% □ C50% □ D50%未満 上記進捗状況の具体的内容 みえLIP 鈴鹿での活動（定期的な鈴鹿病態薬学研究会の開催、SUZUKA 産学官交流会における鈴鹿高専や鈴鹿大学との交流など）に積極的に参画した。 ・三重県産業支援センター活動への参画 ■ A100% □ B80% □ C50% □ D50%未満 上記達成状況の具体的内容 三重県産業支援センター評議員として、当該センター評議委員会に出席し、センターの活動支援と評価に積極的に参画した。 ・地域企業との機能性食品の共同開発への参画 ■ A100% □ B80% □ C50% □ D50%未満 上記達成状況の具体的内容 (1) 「江南化工（株）」との「アオサ・ラムナン硫酸」に関する共同研究の成果を米国ラスベガス市で開催された国際会議で発表した。 (2) 「熊野市」との柑橘類「新姫」に関する受託研究の成果を日本機能性食品医用学会で発表した。 (3) （有）明日香との「乳酸菌発酵ハナビラタケ」に関する共同研究の成果を日本機能性食品医用学会で発表した。

鈴鹿医療科学大学

	<ul style="list-style-type: none"> ・三重リーディング産業展への出展 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 三重リーディング産業展において SUMS 教員による産学官連携活動の研究成果のパネル展示や開発された機能性食品の紹介を行った。 ・三重大学との連携活動による定期的研究会への参加 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 SUZUKA 産学官交流会の活動の中で定期的に三重大学教員との研究成果発表会に参加した。
<p>2. 地域・産学官連携研究活動の強化に向けた学内基盤の整備</p>	<p>①地域・産学官連携研究に関する組織づくりの具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿工業高等専門学校教員との学術交流会の開催 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 (1) 昨年度、鈴鹿医療科学大学と鈴鹿工業高等専門学校との間で SUMS-NITS 医工連携研究会を発足し、これまでに研究会を3回開催した。 (2) 鈴鹿医療科学大学と鈴鹿工業高等専門学校との「学術研究交流」に関する協定を締結した。(H30年2月16日) ・鈴鹿医療科学大学社会連携研究センターHPの更新 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学内研究会の内容等をHPで公開するなど随時HPを更新している。 <p>②社会連携推進の方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年版鈴鹿医療科学大学研究シーズ集の刊行 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 2018年版研究シーズ集を1月に刊行した。 ・社会連携研究センター運営委員会の定期的開催 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 2017年度は3回開催する予定であり、第3回委員会を2月に開催した。 ・2017年度鈴鹿医療科学大学研究紀要冊子の刊行 <input checked="" type="checkbox"/> A100% <input type="checkbox"/> B80% <input type="checkbox"/> C50% <input type="checkbox"/> D50%未満 上記達成状況の具体的内容 紀要委員会委員長として研究振興課と共に2017年度に4回の委員会を開催し、当該年度の研究紀要冊子を1月中に刊行した。

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野 8：国際交流の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり 【中期計画】（平成 27(2015)–平成 29(2017)年度） 1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備、現状調査、計画立案 2. 教員の国際化への対応力・国際的な発信力の強化と、学生の海外体験の機会の拡充 3. アジア等の保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進</p>	
<p>責任者：葛原茂樹（医療科学研究科長） 分担者：大西和子（看護学部長）、磯部篤男（研究振興課長） 事務局：研究振興課</p>	
平成 29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. グローバル化に向けた学内体制の整備	<p>①国際交流委員会において、学内の各レベル（大学、学部、学科、個人）で実施されている国際協力活動（学術、教育、その他）の現状調査の実施と、現在、継続的あるいは萌芽的に進行中のものについて将来の発展性を含め引き続き調査を実施する。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 1. これまでの天津中医薬大学(中国)と鍼灸学科に続いて、医用情報工科学学生の韓国・漢陽大学へ、看護学科学学生の米国・Biola 大学への海外研修が実行された。 2. 新たに海外研修を実施した学科は、手探り状態から次第に海外研修に必要なノウハウが蓄積されつつある。 3. その他の学科においても、教員レベルの交流の推進、それをさらに学生レベルに広げるための啓発活動が、国際交流委員を中心に実施している。</p> <p>②年度内に国際交流活動委員会と国際交流室（あるいは大学組織内の国際交流担当者）の設置を実現する。 □A100% □B80% ■C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 国際交流委員会は全学科代表で構成する委員会を設置し、全学と各学科の国際交流活動の支援と実態調査を実施している。これに対して、事務担当者を置く大学組織としての国際交流室設置は、大学と法人に要請しているが、人員と予算を伴う関係で実現できていない。</p> <p>③H29 年度には予算措置を伴った活動が展開できるように、具体的計画を検討する。 各学部や学科の取り組みを活発化することによりニーズを掘り起こすと共に、大学協議会や運営協議会を通じて、大学と理事会に、活動の重要性を説明し、財務と人事の面で活動できる基盤整備を要請する。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 予算化を伴った国際交流の必要性を委員会提言としてまとめて、学長に提出すると共に、大学協議会や理事長にも説明する活動を行った。一定の理解はいただいたが、予算化と人員確保のところにはあと一步の状態である。</p> <p>④H28 年度に開始した大学 HP を活用し、大学・学部・学科・研究科での活動を紹介する。</p>

	<p><input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学生の海外研修を実施したり、国内において海外との交流活動を実施した学科については、その都度、HP用の原稿を作成してもらい、委員長が吟味添削した上でHPにアップしている。</p>
<p>2. 教員の国際化への対応力・国際的な発信力強化と、学生の海外体験の機会を拡充</p>	<p>①国際対応力実践の場として、教員と学生の一定数が海外体験することを目標に、学科単位で検討する。 各学部・学科で、実現に向けて具体的取り組みや計画を立てるように、委員を中心に働きかけて検討を進める。(既に具体的に動き出した学科もある。) <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 1. 鍼灸学科は、天津中医薬大学(中国)、中国医科大学(台湾)との交流を継続している。教員は薬膳学会を通じて中国との相互往来が継続的にある。 2. 医用情報工学科では、教員1名が引率して、2年生の12名(22名中)が韓国ソウル市の漢陽大学附属病院を2泊3日の日程で訪問し、韓国の医療情報システムを見学した。平成30年度も実施計画している。 3. 看護学科は、教員4名が引率して、学生6名(4年生4名、2年生2名)が米国ロサンゼルス市のBiola大学を3月17-26日の日程で海外研修を実施した。平成30年度は3年生を対象に10名規模で実施計画をしている。</p>
<p>3. アジア等の保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくり</p>	<p>①鍼灸学科の天津中医薬大学との連携、薬学研究科のコンケン大学との連携を、本学の国際交流活動の一環として位置付けて活動する。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 1. 天津中医薬大学(中国)と鍼灸学科は学生研修について定期的な交流が確立されているだけでなく、薬膳学会を通して中国の学会との交流が継続的に行われている。 2. コンケン大学(タイ)と薬学研究科との連携は、MOUを基にして実質的な交流計画が話し合われている。 ②その他のアジア地域ならびに欧米等についても、継続的に交流と提携検討が可能な拠点候補大学・施設を具体的に検討する。 引き続き、交流・提携を目指して、意識的に各学科で取り組む。三重県事業の海外交流事業にも積極的に参加していく。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 1. 鍼灸学科では、天津中医薬大学(中国)に続いて、台湾や北米の大学との交流も模索している。 2. 医用情報工学科学生の韓国・漢陽大学研修、看護学科学生の米国・Biola大学への海外研修は、次年度も継続する方向で検討している。</p>

第1期中期計画及び第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野9：大学活性化のための継続可能な組織体制改革	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】(平成27(2015)-平成29(2017)年度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学長のリーダーシップが常に発揮できる組織体制の構築と目標達成に向けて組織として、PDCAを着実に回せるマネジメントの実現 2. ビルドだけではなくスクラップの視点から組織・業務の見直しによる効率化と質の向上 3. 教職員のモチベーションを高めるため、業績や能力評価を適切と思われるシステムで評価し、昇任や給与・賞与に反映させる評価制度の整備 4. 社会への説明責任を果たし、社会から信頼される大学であり続けるための体制を構築 5. 災害、事件、事故、情報漏洩、研究不正、犯罪等の各種危機に適切に対応できる危機管理体制の整備 	
<p>責任者:豊田長康(学長) 分担者:水谷史生(法人事務局長)、村田尚久(大学事務局長) 事務局:庶務課、人事・厚生課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画の項目	活動計画内容
1. 学長のリーダーシップとマネジメント体制の構築	<p>大学協議会を軸として、月1度の学長・副学長ミーティングにて課題の明確化と解決策を作成していく。</p> <p>■A100% □B80% □C50% □D50%未満</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学長・副学長ミーティングを毎月開催し、諸課題に対応している。</p>
2. 組織・業務の見直し	<p>事務局各課の事務分掌を見直し、業務の効率化や事務組織体制の整備を図る。</p> <p>・全学で実施すべきスクラップ案を5月中に具体提案する。</p> <p>■A100% □B80% □C50% □D50%未満</p> <p>上記達成状況の具体的内容 法人事務局企画課を企画広報課とし、法人の広報に加え、学生募集戦略や就職先広報について他課と連携し、大学の広報を強化する体制を整備した。</p>
3. 教員評価システムの構築	<p>教育職員等評価実施手順により教員評価を実施し、評価制度の検証・確認を行う。</p> <p>□A100% ■B80% □C50% □D50%未満</p> <p>上記達成状況の具体的内容 評価システムを導入し、試行中である。</p>
4. 社会への説明責任	<p>コンプライアンスに関する規程の見直しを都度行うとともに、教職員一人一人の社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させるための研修会を継続して開催していく。</p> <p>■A100% □B80% □C50% □D50%未満</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ハラスメント防止に関する規程の改正など、コンプライアンスに関する規程の見直しを行った。また、教職員一人一人の社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させるため、科学研究費公募説明会でのコン</p>

	<p>プライアンス研修会、コンプライアンスに関する教職員全体研修会を開催した。</p>
<p>5. 危機管理体制の整備</p>	<p>各種危機に対応するマニュアルの検討、作成を行い、全学での共通理解、浸透を図る。 ・他大学の事例調査、研究に努める。 <input type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input checked="" type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 学生向けの危機対応マニュアル（緊急時対応）は整備できたが、危機全般に関するマニュアル作成には至っていない。</p>

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野 10：財政基盤の充実	
<p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立 【中期計画】第一期中期計画（平成27(2015)–平成29(2017)年度） 1. 高水準の教学展開に要する安定した財政基盤の確保 2. 大学のシーズを利用した外部資金の獲得推進 3. 経費削減の推進</p>	
<p>責任者:水谷史生（法人事務局長） 分担者:水谷史生（経理課長）、磯部篤男（研究振興課長） 事務局:経理課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 財政基盤の確保	<p>①会計基準が変更になる前の年度（～H27年度）の計算書類を新会計基準に読み替え、大学の事業拡大と財政基盤の変遷が読み取れる推移表を作成し、今後の事業計画立案の際の資料とする。 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 資料の作成は完了したので、今後の参考資料として活用していく。</p> <p>②引き続き会計処理の適正化に取り組む。平成29年度では、外部の研修会やセミナーへの参加を踏まえ、最新の情報を収集し課内で共有することを目標にする。 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 12月現在で2種類の研修会に参加し、得た新しい知見を課内で研修会を開催し、共有を図った。</p>
2. 外部資金の獲得	<p>①教育研究施設・設備・装置等の補助金制度を積極的に活用し、各種事業の目的達成や計画の遂行に役立てさせる。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 私立学校施設整備費補助金のうち「私立大学研究ブランディング事業」については、応募の結果不採択だった。また同補助金の「教育基盤設備」、「教育装置」の応募を検討していたが、事業募集が無く外部資金の獲得を得られずに整備する計画で進行中。</p> <p>②教員等の研究活動に資するための財政基盤として、大学の教育シーズを基にした受託・共同研究費や寄付金を獲得する。シーズ集の効果的な配布先、配布方法を検討する。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 全学シーズ集を身近な存在として活用していただけるように17の公的機関・企業支援団体・金融機関に配布を依頼した。 株式会社三重銀総研より、「薬用植物3品目の性状・成分の分析および評価」の受託研究の依頼があった。</p>

<p>3. 経費削減の推進</p>	<p>①これまでの物品購入等申請書や伺書に対する経費削減指導により、経費削減意識は向上してきているので、平成 29 年度においても引き続き指導を行い、さらなる定着化を目指す。 <input type="checkbox"/>A100% <input type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 購入理由が不明確、費用対効果が薄いなど指導が必要と思われる案件については、申請者に質問をした上で、必要に応じて申請の取り下げや金額の見直しを検討させるなど、従来通りの経費削減指導を実施している。</p> <p>②スタートした経費削減活動を全学的に浸透させる。 <input type="checkbox"/>A100% <input checked="" type="checkbox"/>B80% <input type="checkbox"/>C50% <input type="checkbox"/>D50%未満 上記達成状況の具体的内容 毎月 1 回経費削減推進委員会を開催して推進方法を検討するとともに、その結果を全教職員宛にメール発信する事により、全学的に活動を浸透させている。</p>
-------------------	---

第1期中期計画及び第1－3期の活動計画の達成状況

重点分野 11：3つのポリシーの実質化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進 【中期計画】第1期中期計画（平成28(2016)–平成29(2017)年度） 1. 3つのポリシーの策定と運用についてガイドラインに則したPDCAサイクルを実行</p>	
<p>責任者：豊田長康 分担者：教育改革・改善推進委員会 事務局：教務課</p>	
平成29(2017)年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
3つのポリシーの運用についてガイドラインに則したPDCAサイクルを実行	<p>①平成28年度に見直された3つのポリシーのPDCAサイクルを実行する中で、学生や地域、そして全国に伝わる取組を検討する。 ■A100% □B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 ディプロマポリシーに紐づいたカリキュラムマップとマーカーを配布し、学生自ら修得成績別に色を塗りチェックする仕組みを開始、そのチェック済みのカリキュラムマップを担任教員との面談で利用する取組を実行している。 また、企業や教育委員会そして他大学における外部評価委員による外部評価を受けた。更に全国の取組状況を収集している。</p> <p>②全学生が円滑に社会が求める水準に到達できるよう「何ができるようになったか」（アウトカム）に照準を合わせたムリ・ムラ・ムダのない一貫した教育課程の編成を検討 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 教育課程見直しに向けた分析をするためにIR推進室において、様々な側面のデータ収集を更に進めている。その一環として、学生意識調査の質問項目を見直した。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できる方法を検討する。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満 上記達成状況の具体的内容 カリキュラムマップのチェックを学生自身が行うことによる確認と、各科目の成績評価基準をシラバスへ明記することにより、成績評価の可視化を図った。しかし、リアルタイムに測れるクリッカーなどを利用する授業は一部に過ぎないため、全学的に利用できるシステム導入も視野に、到達度を把握できる方法を検討している。</p> <p>④各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用し、全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善を検討する。 □A100% ■B80% □C50% □D50%未満</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国家試験・資格試験の合格率を上げるために、設置されている国家試験対策委員会において、各学科の取組や相互の指摘を参考に、学科で更なる工夫を検討している。一方、全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように学修サポートができるシステムの導入も検討している。</p>
--	--